

疑

つべきにもあらずとて、はしらせて、つちみかどさまへやらするに、いつのまにかさうぞくしつらん、おびは道のまゝにゆひて、しばくどをひくる、ともに侍ひ、ぎうしきものはかではしめる、とくやれといとゞいそがしくて、つちみかどにきつきぬるにぞ、あへぎまどひておはして、まづ此くるまのさまいみじくわらひ給ふ、

〔徒然草上〕つごもり二月の夜、いたうくらきに、松どもともして、夜半すぐるまで、人の門たゝきはしりありきて、何事にかあらんことぐじくの、しりて、足を空にまどふが、曉がたよりさすがに音なくなりぬるこそ、年の名残も心ぼそけれ、

〔書言字考節用集九言辭〕九言辭、捷疾、白捷

〔今昔物語二十五〕藤原保昌朝臣值盗人袴垂語第七

今昔世ニ袴垂ト云極キ盗人ノ大將軍有ケリ、心太ク、力強ク、足早。手聞キ、思量賢ク世ニ並ビ无キ者ニナム有ケル、

〔平治物語二〕待賢門軍附信頼落事

爰ニ鎌田ガ下人八町次郎トテ、大力ノ剛者早走リノ手キ、アリ、馬ニテコソ具スベケレドモ、中徒立ヨカルベシ、高名セヨト云ケレバ、一年モ腹卷ニ小具足差堅メテ、真前ニ進タリケルガ、敵ノ馬武者ノ遙先立テ落ケルヲ、八町ガ内ニテ押攻テ首ヲ取タリケレバ、夫ヨリシテ八町次郎トゾ云ケル、サレバ又此者三河守ノ聞ユル早馳ノ名馬ニ、兩鎧ヲ合セテ被懸ケルニ、少シモ不劣追付テ、甲ノ手返ニ熊手ヲ打カケン打カケント、續テ走ケレバ、頼盛モ甲ヲ打カタフケ打傾ケ、アヒシラハレケレバ、五六度ハ懸ハツシケルガ、終ニ手返ニ打懸テエイヤト引バ、三河守既ニ引落サレヌベウ被見ケルガ、帶タル太刀ヲ引拔テ、シト、切熊手ノ柄ヲ手本二尺計置テ、ヅント切テ被落ケレバ、八町次郎ノケニ倒テコロビケリ、